

## うぐいす

梅の花が咲きはじめました。学校の門のところにある梅も、公園の池のほとりにある梅も、静かに花をひらきました。雄二の家の庭の白梅も咲きました。花に陽があたると、白い花はパッとうれしそうにかがやきます。日蔭の枝にある花は静かに青空をながめています。梅の花はみんなじっと何かを待っているようでした。

雄二の家の庭さきに、ある朝、うぐいすがやって来ました。ホーホケキョ  
ホーホケキョ うぐいすは梅の枝にとまって二声三声さえずりました。が、  
すぐにへいをとびこえて、どこかへとんで行ってしまいました。

その翌朝もまたうぐいすがやって来ました。こんどは、雄二の家の庭が気に入ったのか、少しゆっくりしているようでした。うぐいすは梅の木の枝から枝へ上手にとびうつつて遊んでいました。が、しばらくすると、またへいをとびこして行ってしまいました。

うぐいすは毎朝やって来て、だんだん雄二の家の庭を好きになるようでした。縁側の方から雄二たちが見ていても、あわてて逃げだすようなことはありません。

日曜日の朝でした。

『よし、あのうぐいすを一つ写真にうつしてやろう』と、雄二の父は早速

カメラを持って縁側に現れました。

『とれた、とれた、うまくとれたぞ』

父<sup>ちち</sup>はうれしそうでした。雄二<sup>ゆうじ</sup>もどんな写真<sup>しゃしん</sup>が出来る<sup>でき</sup>のか早く<sup>はや</sup>見たくてたま  
りませんでした。五日<sup>いつか</sup>ほどして、うぐいす<sup>うぐいす</sup>の写真<sup>しゃしん</sup>は出来上<sup>できあが</sup>りました。それは  
庭<sup>にわ</sup>の黒<sup>くろ</sup>べいと梅<sup>うめ</sup>の枝<sup>えだ</sup>が黒<sup>くろ</sup>くうつっていて、白<sup>しろ</sup>い花<sup>はな</sup>とうぐいす<sup>うぐいす</sup>の姿<sup>すがた</sup>がくっきり  
と浮<sup>うきで</sup>出ている、すばらしい写真<sup>しゃしん</sup>でした。雄二<sup>ゆうじ</sup>は父<sup>ちち</sup>からその写真<sup>しゃしん</sup>を一枚<sup>いちまい</sup>もらい  
ました。

けれども、その写真<sup>しゃしん</sup>が出来<sup>でき</sup>た頃<sup>ころ</sup>から、うぐいす<sup>うぐいす</sup>は雄二<sup>ゆうじ</sup>の家<sup>いえ</sup>の庭<sup>にわ</sup>に姿<sup>すがた</sup>を見せ  
なくなりました。どうしたのかしら、どうしたのかしら、と、雄二<sup>ゆうじ</sup>はしきり  
にさびしくなりました。

雄二<sup>ゆうじ</sup>はうぐいす<sup>うぐいす</sup>の写真<sup>しゃしん</sup>をポケット<sup>い</sup>に入れて<sup>い</sup>学校<sup>がっこう</sup>へ行<sup>い</sup>きました。

(青空文庫版)

原民喜

[https://www.aozora.gr.jp/cards/000293/files/43538\\_28512.html](https://www.aozora.gr.jp/cards/000293/files/43538_28512.html)